

パーキンソン病における嚥下障害の特徴



前屈 頸部伸展位

喉頭蓋谷の狭小化、頸部筋緊張

- 自律神経障害による食事性低血圧

対応

◆原疾患の治療

投薬調整により嚥下関連筋の強剛、上肢運動障害の改善

On時に経口摂取ができるように食前に内服

副作用の口腔内乾燥、ジスキネジアなどに注意

◆リハビリテーション

口唇、頬、舌の運動、マッサージ、嚥下体操